

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103482
法人名	特定非営利活動法人 介護企画あき
事業所名	グループホームあき
所在地	松山市富久町143-2
自己評価作成日	2012. 8. 15

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

これからも日々、利用者様そして家族様の支えになるよう活動させていただきたいと思っております。また、終末期におけるターミナルケアにも機会があれば引き続き取り組みたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 運営推進会議時に民生委員の方がすすめてくださった「富久公園」でお花見を楽しめました。外食することもあり、普段は食事がすすまない方も食が進んだり、バイキング形式の食事等とても喜ばれ、たくさん食べられたようだ。利用者は、「また行きたい」「今日はありがとう」と感想を言われている。
- ご家族には、利用者の状態変化時に終末期のあり方について希望をお聞きしている。3年前に、事業所で看取りを支援した方のご家族からは、現在も手紙や贈りものが届いており、時には、事業所にも立ち寄ってくださり、関係を続けておられる。お手紙やご本人の写真は、居間に大切に貼っておられた。事業所では、「できるだけ口から食べる」ことを大切に支援されている。食事がすすまなくなった利用者でも、ご本人の目や体の動き等、意識の状態等を観察して、タイミング等をみながら口から食べることを少しずつすすめ、状態が改善している方も複数おられる。かかりつけ医は、ご家族に状態を説明する際に、「こんなにしてくれるところはないですよ」と言ってくださることもあるようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあき

(ユニット名) ユニットB

記入者(管理者)

氏名 白神 敏恵

評価完了日 2012 年 8 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 理念を実践できるように利用者に対してできるだけ要望に答えられるように日々努力している。</p> <p>(外部評価) 法人代表者は、利用者の「豊かで楽しい暮らし」を支援できるよう、事業所理念を作成されており、ミーティング時等には、事業所やケアへの思いとともに理念に込めた思いを職員に伝えておられる。事業所には、身寄りのない方やご家族と疎遠になっている方等、いろいろな事情のある利用者もおられ、職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、「気持ちが豊かになるようなケア」に努めたいと、取り組んでおられる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 散歩の際には地域の人に挨拶したり、利用者・職員の顔を覚えていただくようにしている。地域の敬老会や運動会、お祭りなどにも参加をし事業所と地域交流を図るようにしている。</p> <p>(外部評価) 敬老の日は、3名の利用者が地区の公民館に出かけ、地域の高齢者と一緒にお祝いをしてもらった。裏のお宅の方から、「おじいさんが食欲がなく、食事がすすまないのだが」と相談があり、事業所でアドバイスをされたこともある。近くの済美平成中等教育学校の三線グループとの交流があり、生徒達が来てくれ演奏を披露してくれた際には、涙ぐむ利用者もみられた。代表者は生徒達に演奏以外でも度々立ち寄りもらえるよう声をかけておられる。事業所は、気持ちのやり取りをととても大切にしておられ、来訪して下さる方にはお土産等を渡して心をつなぐようにされている。</p>	<p>事業所では今後さらに、「年齢に関係なく若い方からお年寄りまで広く事業所のことを知ってもらえるよう取り組みたい」と考えておられる。法人代表者は、ネットワークを活かして広報されたり、民生委員の方とも相談して、利用者の散歩時に、地域の高齢者の方にあいさつしたり声をかける等しながら、関係を作る取り組みを始めておられる。事業所が目指している「地域の高齢者等が悩みを相談に来られる場所」作りに向けて、いろいろな方と知り合いになり、ゆくゆくは、利用者や地域の方達とのつきあいに広げていかれてほしい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 近所の方の家族の事で、分からないことや悩みを相談された時に助言をした。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を通じて、社会福祉協議会、市役所介護保険課、包括支援センター、地域の方々、の意見を聞き、それを参考にグループホームサービスのサービスの質の向上や改善に繋げるようにしている。</p> <p>(外部評価) 会議には、市の担当者や市社協、地域包括支援センターの方、又、時には、民生委員の方も参加されている。事業所からの報告は、行事や取り組みごと、写真をまとめて見やすくされている。次回の会議時には、食材や調味料をよく購入する業務スーパーの方にも参加いただき、「利用者が喜ぶ食材」等を紹介してもらうことになっている。</p>	<p>さらに、参加しやすい会議を工夫し、いろいろな方を会議にお誘いして、事業所の様子を見てもらったり知ってもらってはどうか。事業所では、とろみ剤等を購入している地域にある薬局の方や、生徒が三線の演奏に来てくれている学校の方等、いろいろな立場の方に参加していただきたいと話しておられた。会議を通じて、他グループホームとの交流もすすめてみてはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 行政説明会や研修会への出席にとどまらず、担当者と連絡を取り、とてもよく連携できている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者の方は、運営推進会議に参加していただき、事業所からの活動報告に対して、「個別の外出等、個別ケアによく対応している」ことや、「若い職員の育成や長く勤めている職員が多いことがよい」と感想を話してくださった。地域包括支援センターの方からもらった嚙下体操のDVDは、職員が利用者と一緒に見る等されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 原則、身体拘束は行わない。日中、玄関は施錠せず、夜間のみ安全の為に施錠をしている。できる限り拘束しないように努めているが、どうしても身体拘束が必要とされる場合には、かかりつけ医やご家族に連絡をし、同意を得ている。</p> <p>(外部評価) 居室の窓から、ものを投げる利用者があり、職員は、窓の開く幅を固定して制限したり、窓の外にネットを張って防ぐよう取組まれたが、行為に改善はあまり見られず、さらに職員で話し合わせ、「ご本人の所在を把握すること」、「よく声かけをする」ことで、現在は、行為が改善に向かわれている。入居時、向精神薬を服用している利用者もあるが、医師やご家族と相談して生活の様子をみながら薬の調整等にも取組まれている。体調により、お酒を飲むことを制限されているため不満を感じているような利用者もあるが、外に出たりお菓子を食べる等、気分転換できるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の尊厳を守る介護を一人一人が心がけ、虐待の起こらないように努めている。ミーティングでは虐待防止について話し合う機会を設け、職員一人一人の意識を高めるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員が、松山市の行う市民後見人養成講座を受講するなど制度理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、必ず書面を見ながら説明し、重要事項説明書に納得の上、サインをしてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各利用者には担当職員がおり、要望や意見に耳を傾け、その思いが生活の中に反映される様になっている。職員は家族が来所された際には話をする機会を持ち、意見や要望を伺うようにしている。 (外部評価) 利用者はご家族と疎遠になっていたり、ご家族がおられてもご本人や事業所に関心を示さない方も多。事業所では、開設当初から利用者個別に、健康状態や暮らしの様子を手書きの手紙でご家族に報告されている。又、ご家族来訪時には、居室でゆっくりお話できるようお茶を用意されている。事業所で納涼祭を行った際には、ご家族も複数来てくださった。又、以前、運営推進会議時にミキサー食や介護食の試食会を行った際には、ご家族が複数参加されたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月2回のミーティングを開き、職員全員で意見や提案を出して話し合いを行っている。出された意見や提案は、グループホームの運営に反映されている。	
			(外部評価) 職員は、外部研修受講時等に、他事業所の方とケア困難な事例について相談されたり、研修で得た知識や情報はミーティング時、周知して、ケアに採り入れながら取り組んでおられる。利用者の状態の小さな変化や気付きについても、職員間で申し送ることに努めておられ、病気の早期発見や事故防止に取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 休日の指定は平等に聞き入れている。 職場環境・待遇の整備はできている。 また、職員の自己研鑽の研修なども内容を勘案して法人が費用負担し、働きやすい環境を作っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に関する情報を職員に伝え、参加できるような体制を作り、職員の知識・技術の向上を行っている。研修の内容はミーティングの際に全職員報告を行い、グループホーム全体でのレベルアップに繋げている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った他施設の方と研修後も連絡を取り合い、情報交換をしている。他施設の取り組みで良いことは自分の施設でも取り入れている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に何度かお会いして顔見知りになり、ラポール(信頼関係)を形成し、サービスの利用を開始する際、少しでも不安がないようスムーズにいくように努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族に見学に来てもらい、グループホームでの生活を様子を見ていただき安心していただく、また職員は自ら家族に話しかけ、遠慮して許せない不安や要望なども聞き出し、それを解消することで信頼関係を築くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族等・事業所とで話し合いを行い、本人が必要としている支援を見極め、その内容によって他のサービス(医療等)との連携を図り、対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 不必要な馴れ合いの関係になることなく、それでいて一つの建物の中で暮らしを共にする温かい関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族に向き合おう、声を聞こうという市井を常に持ち、家族の本人に対する思いを理解することで、共に支えあう関係を築けるように努めている。また、本人の生活様子を欠いた手紙を毎月贈り、遠地の家族がホームでの生活を把握し、安心していただけるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 来所された知人や家族など顔なじみの人と楽しい時間を過ごす、ドライブの際にはなじみの場所に立ち寄るなどし、本人が築いてきたなじみの人や場を大切に維持できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望により、マンガ本等を買いに出かけたり、お気に入りの梅干しを取り寄せている方もある。プロ野球が好きな利用者や職員がおられ、好きな球団がそれぞれに違い、日々話題にして楽しくお話をされている。ご家族来訪時に一緒に撮った写真を居室の入り口に貼っておられた。利用者は、日々一緒に過ごす職員を頼りにしておられるが、ご家族の立場や役割、心情等も踏まえて利用者として「ご家族とのきずな」を深められるように、さらに支援を工夫されてみてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の性格・生活歴を考慮し、支えられるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用(契約)が終了しても、お便りを出したり、ホームにご訪問いただいたりして、良好な関係に努めている。利用者さんへのおやつなどいただくことも。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員が利用者同士の関係を把握し、顔なじみの関係作りと、相手への思いやりの気持ちが持てるように努めている。 (外部評価) 前回の評価実施後、利用者の情報を得るためにご家族と話す機会作りに取り組みました。又、利用者個々に担当職員を配置して、身寄りのない利用者等からも興味のあることやお好きな食べ物等を聞き取り、叶えられるよう取り組まれている。事業所は、職員の入れ替わりが少なく、職員は利用者の好みや性格等をよく知っておられる。日々のケアの記録や毎月ご家族に送付している手紙には、利用者の現況や様子を記しておられ、それらを見るとその頃の個々のことを知ることができるようだ。他の利用者のご家族が来られている時、さみしそうな表情になる利用者もあり、職員はそばで、「楽しみになるような計画を相談する」等して、ご本人の気持ちを逸らせるよう気遣いされている。	利用者は、50代～90代と年齢も幅が広く、又、個々の状態等にも違いがある。今後さらに利用者主体の個別ケアの実践に取り組み、個々の心豊かな暮らしを支援していかれてほしい。さらに、以前の情報を得にくい利用者も複数おられることから、今後もさらに個々の情報収集に力を入れて取り組み、利用者をご自分で意思表示することが難しくなっても、それらの情報をもとにして支援に工夫していかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族に聞き取りをする。また、普段の生活の中の何気ない会話の中で見つける(裁縫・編み物など)	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 今日の変化は、昨日までの観察を怠っているとできない。一人一人の状態把握は日々努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者を担当制にしている。本人・家族。主治医はもちろん、職員と随時話し合い、介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			3ヶ月ごと、又、状態変化時等には、介護計画を見直しておられ、ご家族等に計画を説明してサインをもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			本人が話した会話の内容、様子、職員が感じたこと、対応などを介護記録に書くことで、職員全体での情報共有をはかり、個別ケアにつなげていけるようにしている。また、記録はご家族が希望した際にはいつでも閲覧できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者の年齢層が幅広いので、本人それぞれのニーズに合わせて支援やサービスの多機能化に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			民生委員との交流を通じて、近隣の行事への参加など地域資源を教えていただいている。その地域資源を活用して一人一人の豊かな暮らしの実現に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医に関して、本人・家族はその医療内容に安心し、納得していただいている。ご家族が受信できない場合には、職員が病院受診に同行し、適切な医療が受けられるように支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々がこれまで診てもらっていた医療機関に続けて診てもらえるよう、職員が受診に同行されたり、往診してもらう等して支援されている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>提携医療機関より、定期的に(週1)訪問診察に来ていただく事により、主治医や看護職と連携が図れる体制ができています。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>(自己評価)</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>重度化や終末期においては、医療機関や家族、事業所とで話し合い、協力しながら、本人の望み・家族の意見を支援に取り入れて、チームとしての体制作りを努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族には、利用者の状態変化時に終末期のあり方について希望をお聞きしている。3年前に、事業所で看取りを支援した方のご家族からは、現在も手紙や贈りものが届いており、時には、事業所にも立ち寄ってくださり、関係を続けておられる。お手紙やご本人の写真は、居間に大切に貼っておられた。事業所では、「できるだけ口から食べる」ことを大切に支援されている。食事がすすまなくなった利用者でも、ご本人の目や体の動き等、意識の状態等を観察して、タイミング等をみながら口から食べることを少しずつすすめ、状態が改善している方も複数おられる。かかりつけ医は、ご家族に状態を説明する際に、「こんなにしてくれるところはないですよ」と言ってくたさることもあるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 内部で研修会をしたり、消防署の指導を通じて個々の職員が応急手当や初期対応ができるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の避難場所、避難方法は取り決めているが、災害時の地域との協力体制構築には至っていない。 (外部評価) 避難訓練時には、消防署の協力を得て、消火訓練等も経験された。職員は、事業所内で、以前はスリッパを履いておられたが、現在は、いざという時、即、避難誘導ができるよう、スニーカーを履くようにされている。地震が発生した際にはガラスが割れることも想定して、通路の安全確保のために新聞紙を多めに保管されている。今後さらに、訓練後に課題や気づきを出し合い、さらに安全に避難できるような方策を検討していかれてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人一人の意思を尊重し、その人の性格や好みに合わせた言葉掛けや対応を心がけている。また、職員が居室に入る際には、ドアをノックしたり、ご本人に声を掛けてから入るようにするなど、その人の意思やプライバシーに配慮している。また、入浴や排泄等、同姓介護をできる範囲で行いプライバシーの保護に努めている。オムツ等を使用されている方はオムツにタオル等をかけ、オムツが見えないような配慮をしている。 (外部評価) 法人代表者は、利用者の居室を廻り、一人ひとりに「何か欲しいもの、食べたいものはないですか？」と聞き取っておられる。又、こちらからも提案して、必ず守ることを指切りげんまんして約束されていた。利用者によっては、「夜食のインスタントラーメンを買ってくる」ことや、「外食する」ことを約束されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活での交流を通じて、職員と利用者との信頼関係を築くように心がけている。言葉でうまく表現できない入居者の方にはジェスチャーで表現していただいたり、表情などをよく見て本人の意思を確認し、一人一人が自己決定できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活のペースを大切にして、その人のペースで一日が過ごせるようにしている。また、予定していなかったお買い物やドライブも、利用者様の要望により、その日急に出かける等できる限り希望に沿って支援できるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々の着替えは出来るだけ本人に選んでいただいている。自分で選ぶのが難しい方には、職員がその人に似合う装いを本人と考え、選ぶようにしている。また、女性の方には髪を染めたりなど、お洒落が出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は利用者と同じテーブルを囲みながら食事をし、一人一人のペースに合わせた食事の介助を行っている。担当職員は利用者の好みなどを聞きだすなどして、メニューに反映できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じて、食物を小さく刻んだり、ミキサー食にして「できるだけ口から食べる」ことを大事に支援されている。職員も席をともにして、利用者と同じものを食べておられ、食事介助する時には、「ご飯ですよ」「酔物ですよ」と声をかけておられる。食材は、法人代表者が食材を選んで買って来られ、職員個々が担当して食事を作っておられる。食事の匂い等がしだと、利用者は食堂に集まって来られるようだ。食事の時間、職員が行ったり来たりするような場面も見られることから、事業所では今後、「食事を介助する職員を決めて、利用者がゆっくり食事できる雰囲気作りに取り組みたい」と考えておられる。さらに、利用者がおいしく食事するためにも、食事の感想を聞けるよう職員の言葉かけ等も工夫してみたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の毎食の食事量や一日を通じての水分量などを記録し、栄養や水分が不足していないか確認をしている。摂取量が少ない利用者には、好みの飲み物や食べ物を用意するなどして、本人がすすんで食事が摂れるように努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きの声かけ、ケアを行い、個別記録している。個別で歯ブラシもその人に合ったものにかえている。寝たきり等で、歯磨きが困難な場合は処方してもらったイソジンガーグルをガーゼに浸して口腔清拭をしている。また、必要に応じて歯医者よりケアを受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人の排泄パターンや習慣をチェックし、随時トイレへの声かけ誘導することで、排泄の自立に向けた支援を行っている。オムツ介助の方も可能な場合は、トイレで排泄していただけるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄を失敗したことを悲観するような方もあるが、職員は「大丈夫よ」と穏やかに接してケアされている。自室で放尿する利用者もあるが、職員はご本人をトイレにお連れして座ることを気長に支援され、「トイレに行く」という意識を忘れないよう支援されている。紙パンツを使用していた利用者もトイレでの排泄がうまくいくようになったら、布パンツを使用して早めにトイレに行く等して支援されている。ご本人は、布パンツに替えたことを喜ばれ、「久しぶりの感触だ」と、笑顔で感想を話されたようだ。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>便秘気味な方には水分を多めに飲んでもらうなど、出来るだけ薬に頼らず、自然排便が出来るように努めている。また、ヨーグルトや食物繊維の多いものを食べたり、散歩に出かけて歩いて、腸の動きが少しでも活発になるよう取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>週2回の入浴日を決めているが、本人の希望や状態などに合わせて曜日や時間の変更を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週に4回入浴日を決めておられ、4日も入浴する方や入浴を好まない利用者も週に2回は入浴できるよう支援されている。体調が不安定な利用者も複数おられ、医療機関で診てもらえる時間帯(午前～16:30)を入浴時間と決めておられる。お好きな入浴剤を入れて温泉気分に入浴する方もいる。お風呂に入り、職員に「歌を歌ってほしい」と希望する利用者もあり、職員は、リクエストの「青い山脈」「りんごの歌」等を歌いながら支援されている。冬は夜間に足湯をしてから休む方もいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人の生活のリズムの把握に努め、急速ができるように支援している。日中は居室にこもりがちにならず活動的に過ごしていただくことで、安眠ができるように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個別に薬箱・処方箋ファイルを用意し、職員は薬の種類や効能についても把握するように努めている。薬は職員が管理・チェック用紙に記入し、飲み忘れや誤飲がないように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者本人の希望で、スポーツ新聞の定期購読、ようかん、梅干などの嗜好品の取り寄せなどを行っている。お芝居を見に行ったり、お寿司を食べに行ったり、女子会をしたりと気分転換の支援もしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人のその日の希望にあわせて、散歩などを行っている。買い物レク表示レクなども精力的に行っており、戸外に出かけられ活動的な日々が過ごせるように支援している。 (外部評価) 運営推進会議時に民生委員の方がすすめてくださった「富久公園」でお花見を楽しまれた。外食することもあり、普段は食事がすすまない方も食が進んだり、パイキング形式の食事等もとても喜ばれ、たくさん食べられたようだ。利用者は、「また行きたい」「今日はありがとう」と感想を言われている。事業所では、個別支援をすすめておられ、利用者からの希望に応じて、数名で喫茶店に出かけたり、お誕生日には、回転寿司で外食されたり、松山劇場に観劇に出かけたりされている。又、「パンが食べたい」等、その日に希望に応じられるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した光で、お金が自由に使えるよう支援している。管理できる場合は、お財布を持たせている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者が心地良く過ごせるように、自然の光他風を取り入れた落ち着いた雰囲気作りを心がけている。時期の飾りつけや花でグループホーム内においても季節感を感じられるように努めている。</p> <p>(外部評価) 駐車場のプランターに植えている花等の世話をされたり、居間の水槽の熱帯魚のえさやりをする方もいる。玄関の階段で上がり降りされたり、建物の側には、スロープが付いており、居間から駐車場に出入りできるようになっている。廊下には、職員の写真と名前を掲示しておられた。居間のテーブルで昼食後にスポーツ新聞を読んでいる方がいた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 気の合う利用者同士でテーブルを囲みお茶が楽しめるよう食事の時は違うテーブルの配置にして、工夫している。お互いのユニットを自由に行ったり来たり出来るようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人・家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を置くなどし、今まで過ごしてきた環境に似る事で安心した生活が送れるように努めている。</p> <p>(外部評価) ベッド上で長時間過ごす利用者も複数おられ、テレビを見やすい位置に設置されたり、日当たりによってベッドの向きを替えたりされている。又、ベッドの柵に登って転倒する心配がある利用者もおり、ご家族と相談して床に布団を敷いて休むようにされたり、ベッドマット等を置いてカバーをされていた。居室の隅にほうきを置いて、お好きな時に掃除をする方もいる。居室の窓外にロープを張っており、個々の洗たくものを干したり、窓には布団を干しておられる。居室の窓辺にタンバリンを置いている方があり、気分が優れない時には、職員と一緒にタンバリンを鳴らしながら歌を歌うようだ。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレや浴室には手すりを設置し、廊下もシルバーカー、車いすどちらでもゆっくり移動できるようにしている。と入れた居室には場所が分かりやすいように印をつけたりし、一人一人の目線や立場を尊重し、出来る限り自立した生活が送れるように支援している。</p>	